

座右の書から思い出の本まで、リレー形式でつなく読書案内。

玉川で教える先生方に「この1冊！」を紹介していただきます。

今
月
は

文学部 鈴木彩子先生

旅心を誘い 新たな自分と出会う きっかけとなる書



『深夜特急』シリーズ (全6冊)

沢木 耕太郎 著
● 新潮文庫

教壇に立っていると「先生は昔から勉強出来たんでしょ？」なんて訊かれることがある。いやいや、大学1・2年生の頃の私を知る人には、現在私がこの仕事をしていることは大きな驚きであろう。英語学専攻だった私は友達の英語力に圧倒され、大学を辞めることばかり考えていたのだ。そんな落ちこぼれた気分の中、1つの転機になったのが本書との出会いである。

親友が貸してくれたこの本を夢中になって読み、読み終えると同時に、「私も旅に出なくては！」と同じく本書に突き動かされていた親友と旅の計画を練り始めた。その後の大学2年間は、シンガポールからタイまで陸路で北上したり、アメリカを車で横断したりと、バックパッ

カーの真似事に明け暮れた。

すると大学を辞めたいどころか、いつの間にか学ぶことが面白くなっていった。旅の体験は勉強にも生かされ、「あれはこういうことだったのか！」と分からなかった授業が理解できたり、「どうして？」と思ったことを自分で調べたり。「私じゃ無理」と勝手に諦めていたのが、「私にだって出来る」と思えるようになっていたのだ。

「内向き」などと今の学生は形容される。確かに自分のコミュニティに居ることは楽だ。しかし、私が経験したように、そこから飛び出したときに初めて出会える自分もいるはずである。時間も自由もある学生時代、本書などをきっかけに大いに外へ飛び出して欲しいと思う。

これもおすすめ



『英語はアジアを結ぶ』

本名信行 著／
玉川大学出版部

● 学校教育により培われてきた、「ネイティブスピーカー至上主義」という日本人の英語観を覆すであろう1冊。アジア地域での英語の使用状況から、英語による国際コミュニケーションのあり方を考える入門書。



『留学で人生を棒に振る日本人』

栄 陽子 著／扶桑社新書

● 「留学すればすぐに英語もできるようになって、就職にも有利」なんて漠然と考えている学生と、その親に読んで欲しい。留学と英語にポジティブなイメージを抱きすぎる人たちに警鐘を鳴らす1冊。